

読み・解く  
政治

星 浩 (編集委員)

「衆参両院の予算委員会を  
まじめに聴けば、政策通にな  
れるぞ」。駆け出しの政治記  
者の時、先輩からアドバイス  
を受けたので実行してみた。

当時の中曽根首相と野党議  
員との論争を連日聴いたが、

睡魔に襲われた。政策通にも  
なれなかった。討論とは別に

与野党の裏交渉が続き、予算  
案や重要法案は強行採決され

た。野党の審議拒否を「寝る」  
と言ひ、審議に復帰すると

「起きる」と称する。そんな  
業界用語も飛び交っていた。

それから約20年。今年も通  
常国会の折り返し点で予算が

成立し、後半国会では、年金  
改革など多くの重要法案が審

議される。「それにしても、  
国会審議がつまらなくなっ  
た」と先輩記者たちが嘆く。

確かに、国会で血湧き肉踊  
る場面は少なくなった。社会

## 「低調国会」の楽しみ方

党の「爆弾男」が政府を追及  
して「そんな答弁では、審議

は続けられない」と大声を  
張り上げて審議がストップす

る。そういう芝居じみた展開  
はない。国会が紛糾して自民

党内がざわつく。そんな「政  
局」も見受けない。

考えてみれば当然だ。基本  
政策が大きく隔たる自民党と

社会党の論争は分かりやすか  
った。自民党は表向き社会党  
に譲ったふりをしながら実際

には自衛隊増強、消費税導入  
などの政策を進めた。

今は違う。自民党と民主党  
の政策は似通う。イラクへの

自衛隊派遣では対立するが、  
日米安保や自衛隊については

共通の基盤がある。年金改革  
では、将来は消費税を活用し

た抜本改革が必要だという考  
え方が両党の底流にある。だ

から論戦は技術的になる。  
民主党の若手議員はドライ

だ。「論議を尽くして与党が  
採決するなら、しようがな

い。多数を占めているのだか  
ら。その代わり自民党が選挙

で負けて民主党政権ができた

ら、民主党が次々と法律を通  
させてもらう」という理屈  
だ。「審議をストップさせる

気はない。有権者には議事録  
を読んでもらって、勝敗を判

断してもらえばよい」と言っ  
てのける若手もいる。

ワシントンで外交問題を研  
究した長島昭久氏を始め、専  
門知識を持つ1年生議員が予

算委の質問者に抜擢されると  
いうケースも出てきた。

これを「低調」と切って捨て  
るか、「時代の節目」と受け  
止めるのか。メディアの能力

も試される。  
ところで、国会のテレビ中

継を見て、あることに気づい  
た。答弁する政治家や官僚に

は3種類いることだ。

まず、自信のない人は資料  
を棒読みする。次に、自信家  
やスタイリストはメモを持た

ない。郵政民営化問題を答え  
る小泉首相がそうだ。田中均

外務審議官も、メモを持たな  
いことでは有名だ。野党を刺  
激し、「生意気だ」とにらま

れるが、そんなことは気にし  
ない人たちだ。

もう一種類は、メモは持つ  
ていても、あまり読まない人。

外務省の敷中三十二アジア大  
洋州局長はこのタイプだ。国

会答弁が好きだった竹下元首  
相はかつてこう話していた。  
「メモを持っていないと、野党

の委員は『自信がないな』と  
油断してくれる。それに資料  
を作ってくれた人のことも考

えないといかんわなあ」  
「低調国会」でも、いろい  
ろな楽しみ方がある。